

人の偉大な弟子の像（乾漆十大弟子立像） 国宝

奈良時代（710～794 年）につくられたこれらの像は、歴史的な仏陀釈迦牟尼の 10 人の有名な弟子たちのうちの 6 人の肖像である。麻の繊維に漆を塗り重ねた乾漆造で、内部は空洞になっており、様々な表情を見せている。様々な年齢の仏陀の弟子たちであり、老齢の者は衣服にシワや折れ目が多くなっている。それぞれの弟子は、瞑想や議論、説教などの達人として、仏陀の理想を表現している。

この 6 体の像はもともとは 10 体あり、興福寺の西金堂に収められていた。すべてが 1717 年の火災の難は免れたが、今興福寺に残っているのは 6 体だけである。残された 6 体は、現在では目犍連、舍利弗、須菩提、迦旃延、富楼那、羅睺羅として特定されている。

1 体の木杵は現在、東京芸大の収蔵品となっており、もう 1 点は大倉集古館が 1923 年の関東大震災で焼失したときに一緒に失われた。その他の 2 体の行方はわかっていない。